磐城商工時報

月三回發行五、十五、廿五日
發行兼編輯人印刷人　渡邊源吉
福島縣平田町二番地
發行所　磐城商工時報社
廣告料　五號十四字詰一行廿錢場所指定拾錢增
新聞定價　一部金五錢　一ケ月十五錢一ケ年一円六十錢

今の飼鳥界について

飼鳥は近來非常に流行して都會と云はず地方と云はず至る處に飼育せられてをりますが之は小鳥其ものが近代人の趣味生活と全く離れる事が出來なくなると同時に副業飼鳥の基礎が追々に堅固となりつゝあるからであります、即ち小鳥は今日では既に必要品化されたから其需要は恒久性を帶び之を供給する方面の副業家も充分安心して之に從ふことが出來るのであります、

現在では愛らしき小鳥の數番を飼ふ事によつて格外の利益を生みつゝある向も少くありません一体此飼鳥と云ふものは實益に伴ひ何ものにも代へ難く興趣深きもので一度之に手を染めたならば何人も之を廢する事が出來ぬ程趣味が出て來るものであります、さて然らば何時までも小鳥は高いか、何時までも需要かあるかと云ふ問題が當然生じて來る筈です、是れに對する心配は無用であります、即ち小鳥の價格と云ふのは今では世界的となり今日倫敦が高ければ明日は東京が高いと云ふやうに需給の關係が世界的になつて來てをります、故に日本が高ければ外國の鳥が日本に流れ込み、又日本が安くなれば外國に輸出されると云ふやうに小鳥の値段は常に調節されて居ります、夫れで若し今後日本で鳥價が安くなれば外國に輸出されますから輸出によつて値段は直ぐ回復して參ります、現に國産鳥の**十姉妹**の如きはぞん〳〵輸出されてをりますが夫れでも時々大口の注文が入り之に應じ切れぬ場合も往々ある位だそうです、斯の如き次第ですから國産鳥の海外輸出を目的として大阪には資本金七十萬圓の飼鳥會社が出來、東京にも二十萬圓の東邦飼鳥會社が創立された位であります、副業として相當の利益を見乍ら强ひては國益の一端ともなるのですからこれから益益同好者をふやして盛んに海外輸出を試み幾分なりとも輸出貿易の振興に資したいと思つてをります、しかし私をして敢て云はしむれば、今日の飼鳥の流行は余りに堅實味が少いと云ひます、暫く趣味の飼鳥は措いて些か實利方面に就て考察して見ませう、一言にして云へば今日の飼鳥界は所謂濡手で粟式の考へが多すぎます、算盤に合ふから鳥を飼ふと云ふ人はありません儲かるから鳥を飼ふので此儲かると云ふ事も所謂世間並の利潤を得らるゝと云ふ意味で無くボロイと云ふ意味があるのです、ボロイから始めた飼鳥家は市價がいくらか低下してそれとてもどう考へても採算破れなどゝ云ふ事はまだ〳〵遠いにも拘らず青息吐息と云ふ事になります、それは思つた程ボロくなかつたためです、私は實利の飼鳥は此ボロイ時代を經て合理的に落ちつく時代が來なければ堅實なものとは思ひません、或は流行と云ふ事ソレハ全くボロイと云ふ事に因をなして居るのは勿論でありボロくなければ今日のやうに流行はさせますまいがそれならば往年の鶉熱の如く夕立後の虹の如くあざやかに消ねるものでせうか、大分それとは趣を異にして來ました、今日の實利養雛が玆まで來る過程には洋雛の洋行時代もあり一卵何圓と云ふ白レグや若雛何十圓と云ふ熱狂時代もあつたわけで恰も今日の白十姉妹百圓、百二十圓と賣買されたのと大差はありません、此狂的時代も考へやうに依つては將來への第一歩であらう、實用時代又事業としての飼鳥と云ふ一時代が目の前に來りつゝありとも考へられます、それで今後の流行そのものよりは此次に來る落ちついた事業化された時代の來るのを待つて居るもので今日此道にたつさわる諸君も又これから始められんとする人達もさうした遠大な考へで手をつけられたら今日の飼鳥は決して捨てたものではないと思はれます、それで今日の飼鳥家を冷靜に分類して見ますと純趣味の人と多少趣味性を加味した巣引家純ボロ儲け主義の人となります今日は未だ小鳥の巣引を專業にやつて居る人は殆んどないと云へます、其生産家の多くは副業家です、其規模の大小を問はずそれぞれ其副業家の中には儲け一點張りの人と多少の趣味性を加味した人とあります、前者は恐らく飼鳥道の前途も飼鳥の進歩も敢て考慮する必要もないので目先の利益本位といふ事になります、其の意味に於て此道の進歩改善を計ると云ふ事は殆んど困難になります、即ち斯道の改善は一にかゝつて趣味性を保持せる副業家の双肩にありとも云ひ得ます、純趣味に走る人は其數に於て又今日までの斯界の趨勢としては餘りに一極に偏するやの傾きがあります、つまり量に於て將又其進歩改善を計る動機に於て此中間に位する副業家諸君に期待する所極めて多いのであります事は獨り我國ばかりで無くカナリヤの品種に於ては世界第一である英國に於ても其改善進歩は一に巣引家に依つて行はれてをります、つまり我國の現場として副業家諸君に負ふ事頗る大なるわけであります

さて飼鳥の種類も可なり澤山あります、即ち其聲を樂しむ鳴鳥と其形態色彩を賞美する觀鳥とに大別します、目下の流行は此觀鳥に屬するもの數種で前者の鳴鳥としてのそれは殆んど流行の圏外に逸して居ります、そこで鳴鳥は主として趣味的に飼はれ觀鳥は實利的に飼はれます。それならば鳴鳥は高尚で觀鳥は下品かと云ふと私はさうとは思ひません、實利が下品で趣味が上品と云ふ事は時代錯誤と云ひます、要は鳥飼ひ其人の心です實利を計る事決して下品では無く今日の世相から云へば却つて文化的でありませうが玆に再びくりかへし度き事は濡手で粟式の鳥飼ひで無く合利的であり度い事です、前者は投機的で後者は事業的であるとも云ひ得ます私は飼鳥道殊に今次の流行に依つて刺戟され又研究された今日の日本の飼鳥道は單なる一流行なる一言に依つて夢の如く忘れらるゝ事は余りに爛熟し過ぎた樣な氣がします、あくまでもボロ儲け時代を捨て合理的採算時代に進む事に留意して戴き度いボロ儲けを夢みずして堅實なる計算と計劃とに進まれたい、それがやがては飼鳥道の常道となる事疑ありません、試みに玆に十姉妹一番を飼養する收支計算の一例の概算を示して始めてかし鳥する方達の參考に供し度と考へます。

十姉妹

一番雛五圓より六圓、庭箱及び雛品五圓、五ケ月分かひ料二圓、計十三圓、三ケ月後に四羽の雛を得らるゝと見てこれで親の代價は回收される斯くて尚三ケ月かふとひながとれこれを賣ると箱の代が回收される、かひ料代が殘るだけとなる、尚三月後にはひながどれ親一番と籠とが殘る譯でこれを賣れば八割内外の利益となる、此場合雛を賣らずに繁殖をつゞけ十二羽になるまで置くとそれが十五圓位に賣れ次の三ケ月目には雛が再び十五圓となりこれで全部の資本が回收され餌代も消却されて親三番と籠とが殘る計算となる、其後は漸次利益が增大する。蓋し最初から優良な鳥をかへば更に利益が增大する。以上は一番から始めた計算であつて最初から五番、十番と用意すれば一年後には侮り難い利益となります、しかし此かひ鳥ばかりは種子鳥の買入を過ればいつになつても收益を見る事も出來ず從つてあいてしまひ始めの意氣込も何處へやら二度と手を出すものではないなど愚痴を云ふ樣になり失敗、終ります、優良な種子鳥の買入が養成功の秘訣だと云ふ事を申述べて初心のかひ鳥家の參考に供し度と思ひます。筆者は目下親鳥子鳥合せて二百羽程し養いたして居りますがこれまでになる道程にはいろ〳〵と苦い經驗をなめて來たのです。鳥屋の間違でもあらうが雄のみ二羽を番と信じて半歳らし養したり、食卵癖のあるのを買ひ入れたり、親と稱して高價を出して雛の巣立ち後間もないものを預けられたり、卵を産み終つた老鳥に出逢つたり酷い目に逢ひましたが、最後に或る知人より遇然にも多産系の優良種を手に入るゝ事を得て自分乍ら喜びと云ふよりもむしろ驚きに近い程の成績を示してをります、普通の産卵數は五個か六個だと申すに筆者の養のものは八個迄も産み悉く孵化育雛して巣立ちせしめたのも多數あります、一本の止り木にとまりきれぬ程に並んで居るのを見るにつけても優良種を手に入れた事を感謝せずには居られません。

種子鳥の選擇と否とがかひ鳥成功失敗の分岐点となると云ふ事を重ねて申述ます、徒らに安價にのみ迷はされぬやう注意せられたい、それから鳥をかふには必ず御自身其事に當るがよいのです自ら手を下せ人任せにするな、是が私の信條であります、自ら手を下してこそ自然に鳥と親しみが深くなり從つてそこに趣味も生ずる所謂手盬にかけてこそ愛着心も深くなる里子に遣つた子供は可愛ゆくないとは適例ではありませんかた勤め人の如き終日鳥に親しむ事の出來ぬ方も朝夕は必ず御自身手を下されん事を切にをすゝめいたします。次に收益目的のかひ鳥家に一言する、かひ鳥は一つの産業として行はるゝものである、否産業たらしめねばならぬと云ふ信念を以つて從事せられたい。徒らに生産能率にのみ重きを置かず質の多きものを作らん事を心懸けられたい、即ち量よりも質に重きを置かれたい、輸出問題に於て特に此点に深甚の注意を拂はれたいものであります、幸にして本紙の讀者諸君にして私の主義に共鳴下さいましたならば筆者の喜び之れにすぎません、終りに諸君の健康と幸福とを祈つて擱筆いたします。（渡邊愛鳥園）

十姉妹分譲ス（一番五六圓也）
渡邊愛鳥園
好間村中好間